

(2) 自立心

身近な環境に主体的に関わり様々な活動を楽しむ中で、しなければならないことを自覚し、自分の力で行うために考えたり、工夫したりしながら、諦めずにやり遂げることで達成感を味わい、自信をもって行動するようになる



きれいにしよう！

今日は長期休み前の大掃除！自分の身の回りの道具箱、それから友達と一緒に遊んだ砂場の道具を洗ったり、ままごと道具を拭いたりする。自分の道具箱を雑巾で拭くと「汚いね〜。」「これでピッカピカだよ！」と友達と話している。目には見えにくい汚れも拭き取ることで分かり、道具箱の底まできれいにしていた。終わった後に雑巾をすすぎ、汚れた水を見ることで、きれいになったことをより実感する。「あーきれいになった！」

保育者の援助と環境構成

子ども達が、自分の身の回りを整理整頓したり、掃除をしたりすることは、できるだけ自分のことは自分でやるという自立心の育ちにつながっていきます。人数分の雑巾を用意し、絞り方も伝えています。やらなければいけないことですが、保育者も一緒に行いながら、きれいになるのは気持ちがいいと共感するようにしています。遊びの中で、下駄箱を掃除し始めたり、製作コーナー（紙類等置いてある場）にある材料を何気なく整理整頓したりしている姿が見られたときは「よく気付いたね。」と認める声がけをしています。



技 やりたいんだよ！

冬が近づくと、遊びの中でこま回しが出てくる。まずはひもを巻き、投げて回ったときは、飛びはねてうれしさを表す子どももいる。次第にコツをつかみ、自分で投げられるようになると、技に挑戦し始めた。今やりたいのは、こまのひもを二重にし、その間にこまを滑らせる「綱渡り」。なかなか簡単にはできないが、時間の限り繰り返し、その姿を隣で見守る友達の姿があった。

保育者の援助と環境構成

こま回し（投げこま）は、安全面の配慮が必要です。無理に力を入れすぎて投げた時は、ガラスにぶつかる、友達がけがをすることもあります。どんなことが危険なのか、どのように遊ぶといいのかをみんなで一緒に考える時間を作ります。実際にやってみると、回らないことはよくありますが、その子のひものまき方や投げ方を見て、コツを伝えています。保育者と一緒に投げて回る楽しさを共感できます。次第に自分でやってみるという気持ちになったときは、応援したり繰り返しコツを伝えたりしながら「頑張っているね、もうすぐ回るかもね。」と、諦めずに取り組む姿勢を認めます。こま回しは、様々な技も遊び方もあり、工夫もでき、夢中になれる遊びです。



やりたいことがある！

5歳児になると、やってみたいことが次から次に出てきます。園庭の登り棒の周りに群れができています。登るコツをつかんだ子が、目指すのは一番上！てっぺんです。友達の応援が更なるパワーになっています。友達や先生たちから「もう少し！」「すごい。」と応援されるのは、心地よいことでしょう。やってみるパワーは、友達に伝わっていきます。

